

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 64 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2015 年 9 月 8 日 (火) 13:30～15:35
2. 場所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 有富部会長, 新堀副部会長, 加藤幹事, 伊藤, 上田, 内山, 大久保, 小畑, 川上, 木倉, 熊谷, 小山, 仙波, 高橋, 中島, 平井, 深澤, 柳原, 山本 (19 名)
(欠席常時参加者) 丸岡 (1 名)
(欠席委員) 金木, 坂下, 藤田 (3 名)
(委員候補) 熊崎隆啓(中部電力), 片岡秀哉 (関西電力) (2 名)
(説明者) [LLW 埋設後管理分科会] 吉原恒一 (幹事/原子力安全推進協会) 関口高志 (委員/戸田建設), 山岡功 (常時参加者/原子力安全推進協会) (3 名)
(事務局) 中越, 谷井 (2 名)

4. 配付資料

- FTC64-0 第 64 回原子燃料サイクル専門部会議事次第
- FTC64-1 第 63 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
- FTC64-2 人事について
- FTC64-3 **【原子燃料サイクル専門部会 中間報告】** 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法: 201X-ピット処分及びトレンチ処分編一標準の改定に係る中間報告概要説明資料
- FTC64-4 「クリアランスの判断方法: 2005 (AESJ-SC-F005: 2005) 』初版第 11 刷の正誤表
- FTC64-5 「標準の手引き: 2010」 “免責条項”
- FTC64-6-1-1 日本原子力学会標の改定・廃止の要否の検討結果 (現行)
- FTC64-6-2 標準委員会の活動方針の見直し (案)

参考資料

- FTC64-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC64-参考 2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

事務局から開始の時点で委員 22 名中, 19 名の出席があり, 成立に必要な委員数 (15 名以上) を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC64-1)

前回議事録(案)について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC64-2)

配付資料 FTC63-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について下記のとおり審議を行った。

【原子燃料サイクル専門部会】

専門部会での人事について以下の提案があった。

1) 委員退任の確認

仲神 元順 (中部電力)

藤井 大士 (関西電力)

2) 委員選任の決議

熊崎 隆啓 (中部電力)

片岡 秀哉 (関西電力)

3) 委員再任の承認

小畑 政道 (東芝)

審議の結果、提案は確認、承認又は決議された。

【分科会】

分科会での人事について以下の提案があった。

1) 分科会主査退任の確認

リサイクル燃料貯蔵分科会 主査

有富正憲 (東京工業大学)

2) 委員退任の確認

LLW 処分安全評価分科会

塩見 隆行 (関西電力)

近江 正 (日本原子力発電)

高瀬 敏郎 (三菱マテリアル)

LLW 埋設後管理分科会

塩見 隆行 (関西電力)

近江 正 (日本原子力発電)

臨界安全管理分科会

板原 國幸 (日本原燃)

3) 委員選任の承認

LLW 処分安全評価分科会

門井 務 (関西電力)

宮本 智司 (日本原子力発電)

黒澤 満 (三菱マテリアル)

LLW 埋設後管理分科会

門井 務（関西電力）

宮本 智司（日本原子力発電）

臨界安全管理分科会

林 芳昭（日本原燃）

4) 分科会幹事退任の確認

臨界安全管理分科会

板原 國幸（日本原燃）

5) 分科会幹事指名の確認

臨界安全管理分科会

林 芳昭（日本原燃）

6) 常時参加者登録の確認

LLW 処分安全評価分科会

山岡 功（原子力安全推進協会）

LLW 埋設後管理分科会

山岡 功（原子力安全推進協会）

7) 常時参加者登録解除の確認

LLW 処分安全評価分科会

池田 整（原子力安全推進協会）

LLW 埋設後管理分科会

池田 整（原子力安全推進協会）

審議の結果、提案は確認又は承認された。

(3) 【報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法：201X（AESJ-SC-F014：201X）」ーピット処分及びトレンチ処分ーについて（FTC64-3）

LLW 埋設後管理分科会の吉原幹事，関口委員，山岡常時参加者から配付資料 FTC64-3 に基づいて，“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法：201X（AESJ-SC-F014：201X）”について報告があり，標準委員会で中間報告を行うことが可決された。主な質疑等は以下のとおり。

・今回の改定ではピット処分とトレンチ処分だけを対象としているが，この改定版が発行された場合は，現行標準における余裕深度処分の記載内容はどうなるのか。まったく無効なものになるのか。

⇒学会の決まりでは改定版が発行されると旧標準は廃刊となり，記載内容は無効となるが，残したい技術的知見や文献等がある場合は技術レポートとして残す方法もあるとのこと。

・旧標準は余裕深度処分の新規制基準ができるまで残しておき，このピット処分とトレンチ処分の改定版を発行することはできないのか。

⇒そうした場合は、ピット処分とトレンチ処分は新規制基準に対応していない規定内容等が旧標準に残ったままになる。それは避けなければならない。

⇒旧標準は活かしておいて、改定したピット処分とトレンチ処分の記載内容を追補版として、旧標準に上書きするような形で、改定版を制定するような方法も考えられる。なお、この標準の特徴として余裕深度の部分だけを抜き出して技術レポートとして残すには無理がある。

・標準のベースとなる法令がないのであれば、余裕深度処分の記載事項を残すことに意味はない。余裕深度処分の新規制基準ができた時点で作り直すのが適切である。

⇒旧標準の余裕深度処分の記載内容は参考にはなるとしても標準としては残す意味はないと思われるので、その扱いについては、今回中間報告されたピット処分とトレンチ処分の改定案の策定状況と余裕深度処分の新規制基準の制定動向のタイミングを計りながら、今後検討していくこととしたい。

⇒余裕深度処分の新規制基準は現在国で鋭意検討されており、その制定時期次第では余裕深度の標準改定内容を織り込んで、まだ制定までには1年を要するピット処分とトレンチ処分の標準改定版と合わせて制定することも考えられる。

・今回議論されたような標準制定の経緯は解説等に記載しておいていただきたい。

⇒拝承。

・標準のタイトルは“埋戻し方法”であるが、書かれていることは“覆土の方法”である。埋戻しと覆土は異なるものであるがタイトルを変えるのは難しいので、その代わりにこの標準で“覆土の方法”を扱うことについて“まえがき”等で丁寧に説明することが望ましい。

⇒分科会で検討する。

(4) 【報告・審議】『クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)』初版第11刷の正誤表について (FTC64-4)

事務局から FTC64-4 に基づいて、第61回標準委員会で報告した“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”初版第11刷正誤表(案)“は標準活動基本戦略タスクで取り扱うこととされたため、標準活動基本戦略タスクから次回標準委員会で提案される誤記対応方針案が承認された後に、その承認案に基づいて本件について取り扱うことが提案され、提案は可決された。

(5) 「標準の手引き：2010」“免責条項”中の記載について (FTC64-5)

事務局から FTC64-5 に基づいて、第61回標準委員会で報告した“標準の手引き：2010”“免責条項”中の記載については標準活動戦略タスクで取り扱うとの結果になったとの報告があった。

(6) 【報告】標準委員会運営について(FTC64-6-1-1, FTC64-6-2)

事務局 から FTC64-6-1-1 及び FTC64-6-2 に基づいて、FTC64-6-1-1 の“改定要否の検討結果”フォーマットは廃止されたこと並びに今後所定の“改定要否の検討結果”フォーマットはないこと及び記載において参考となるマニュアルが作成されることが標準活動基本戦略タスクで検討されたこと、“標準委員会の活動方針の見直し(案)”が報告され、“標準委員会の活動方針の見直し(案)”については原子燃料サイクル専門部会と基盤応用・廃炉技術専門部会との役割分担を更に明確にすることを再度標準活動基本戦略タスクで検討することとなった。

5. その他(次回日程)

- ・次回第65回原子燃料サイクル専門部会は、12月1日(火)13:30から開催することとなった。

以上